

公益社団法人大阪自然環境保全協会 「ウミウシ」をテーマとした海洋教育プログラムの構築 およびその実践

実施期間：2025年7月26日（土）～2026年3月22日（日）



【事業の内容・目的】

- 巻貝の一種であるウミウシは、日本国内に1,400種以上が生息しており、そのカラフルな見た目から「海の宝石」と呼ばれている。海がある場所ならどこでも見付き、安全に観察できることから、子どもたちが身近な海の環境や生物多様性を学ぶための導入に適した生物と言える。
- 西日本を中心とした各地の博物館や学校、個人と連携し、ウミウシをテーマとした観察会を実施するほか、情報交換ができる場の提供、普及用教材の開発を行った。
- 観察会の運営や生物地理データの収集に関するノウハウを広く共有し、地域の多様なコミュニティがもつ情報を集約することで、ウミウシを入り口とした海の学びに関する活動が全国各地で実施できるようになる。本事業は、そのための基盤構築を主な目的としている。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

活動の様子

1. 多様な団体との連携によるウミウシ観察会の実施

【開催日時】2025年7月26日（土）～9月20日（土）

【開催場所】大阪湾、和歌山県、三重県、広島県、鳥取県、宮崎県ほか

【参加者数】361人

【活動内容・目的】

- 地域の博物館や学校が中核となり、海に関する観察会を継続的に実施できる基盤の構築を目的として、ウミウシをテーマとした観察会、研修会を実施した。
- 観察会は一過性のものではなく、その地域で活動している団体・個人が今後も継続的に実施できるよう、運営面に加え、観察キットの貸し出しなどハード面での支援も行った。



鳥取県岩美町で開催された観察会



三重県鳥羽市で開催された観察会



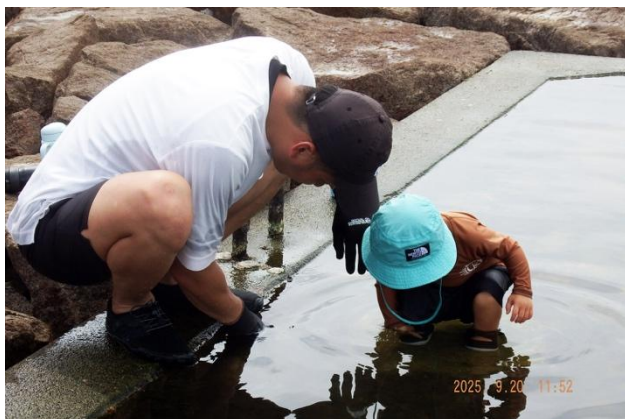
広島県で開催された
教員向けの勉強会



せんなん里海公園で開催された観察会
事前学習の様子

潮汐の程度や底質環境、観察場所までのアクセスなど観察会の開催条件は地域ごとに異なっており、それぞれの特性に応じた実施手法の検討が必要である。また、すでに観察会を実施している団体に加え、今回初めて観察会を実施する団体も含まれていたことから、状況に応じた支援を行うよう配慮した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



夏季の観察会では、野外での活動時間を制限し、室内実習に重点を置いたプログラムを実施した。野外では実施が厳しい顕微鏡を用いた詳細な形態観察や、図鑑等を用いた同定作業に十分な時間を割くことができ、より深い学びの機会を提供することができた。近年、熱中症対策の観点から夏季の観察会を中止する団体も増加しているが、近隣に学習施設がある場合には、十分な対策を講じたうえで実施することが可能である。また、室内プログラムを組み合わせることで、「楽しかった」という体験にとどまらず、「もっと知りたい」という興味・関心へと発展させることができる。



広島県では、8月23日に中学校・高等学校の理科教員を対象としたウミウシ観察会をさとうみ科学館の協力のもと実施した。学校等の教育現場においては、児童・生徒を海へ引率する機会が限られているのが現状である。本観察会では、ウミウシが生息する磯場や干潟の環境と、そこに生息する生物について理解を深める機会を提供することができた。また、本研修には広島大学、広島修道大学の教員も参加しており、多様な教育機関の連携による海洋教育の実施に向けた基盤構築につながったと考える。

【参加者の声】

- 海に入り、生物にふれ、海を守る・生き物を守る大切さを感じることができました。
- 小さな生き物にも多様性があり、楽しい世界があることを知りました。とても興味深く面白い活動でした。
- 自分の知らなかった、気づかなかった海の一面を学びました。もっと知りたい！

2. 更なる連携基盤の拡大に向けた視察

【開催日時】 2025 年 8 月 9 日（土）～ 2026 年 3 月 22 日（日）

【開催場所】 和歌山県串本町、福井県越前海岸、奄美大島、高知県足摺岬

【参加者数】 194 人

【活動内容・目的】

- 昨年度開催した第一回情報交換会で構築されたネットワークを活用し、観察会の運営に関する情報共有を行いながら、観察会実施に向けた準備および研修を行った。
- 当会のスタッフが現地に赴き、観察会候補地の選定および研修を兼ねた現地調査を実施した。調査結果は、次年度実施する観察会の基礎資料として活用する予定である。



観察会の候補地
（奄美大島）



現地調査のようす



カサノリにつく
カサノリタマナウミウシ



貸し出しキットを活用した
ウミウシ類の選別作業

候補地の一つである奄美大島において、地域のダイビングショップと連携し、『奄美大島ウミウシ観察会』を立ち上げるとともに、観察会実施に向けた候補地の選定および現地調査を行った。実施にあたっては、地域の漁業者や大学研究者の協力のもとで開催し、持続的な体制の構築につながるよう配慮した。同様に、福井県越前海岸、和歌山県串本町、高知県足摺岬においても地域の博物館・水族館を訪問し、観察会開催にむけた調整を行った。各地域で観察会の実施基盤が整備されることで、各観察団体が地域の事業者・研究者・市民をつなぐ基盤として機能し、継続的な市民科学活動および海洋教育の実施につながると考えられる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

3. 日本ウミウシ研究会第2回情報交換会の開催

【開催日時】2026年3月6日（金）～3月8日（日）

【開催場所】鹿児島大学、鹿児島県枕崎市

【参加者数】110人

【活動内容・目的】

- 昨年度に引き続き、第2回となる情報交換会を鹿児島県内において、3日間のプログラムで開催した。本事業は、多様なコミュニティ間の連携強化を主目的とし、これからウミウシに関わる活動を志す者が誰でも気軽に参加できる場となるよう配慮した。
- 野外観察会では、今年度の支援事業により作成した同定用資料および貸出キット等を活用し、本事業の周知および普及を図る場と位置付けた。



集合写真



観察会のようす

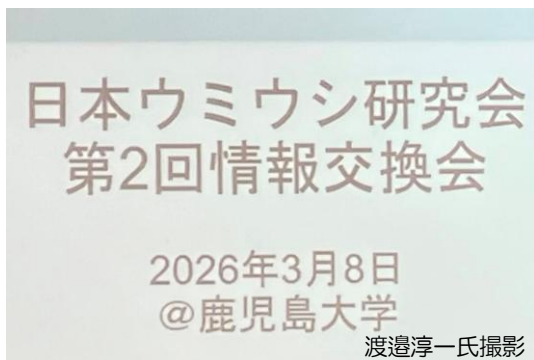


観察会のようす



採集したウミウシ類を分類し
名前を調べているところ

1日目は枕崎市の海岸においてエクスカーションを実施し、2日目は鹿児島大学において情報交換会を実施した。参加者は延べ110名となり、第1回を上回る数となった。普段は関わる機会の少ない団体・個人が相互に接点をもつことができ、今後の活動を進めるうえでの課題点を共有するとともに、相互にサポートする体制の構築につながったと考える。



情報交換会のようす



情報交換会のようす



情報交換会のようす



集合写真

エクスカーションでは、枕崎市の海岸において参加者が実際にウミウシ類を探索し、同定作業や観察会の運営手法について体験的に学ぶ機会となった。現地での実践を通じて、種同定のノウハウに加え、安全管理や参加者対応といった運営上の工夫についても理解が深まった。また、情報交換会では最新の調査研究や各地の活動事例を共有し、立場や地域を越えた活発な意見交換が行われた。本事業を契機として、今後観察会の実施を提案する参加者も現れ、活動の波及的な広がりが見られた。さらに、地域で普及活動を行う団体と大学研究者が連携する具体的な動きも生まれ、情報交換会の開催が継続的な活動基盤の構築につながった。

【参加者の声】

- 分類や分布に関する研究が面白くて、新たに種を見つけられる理由が海洋環境の変化に伴うものなら、より興味深いと感じた。
- 体験を通じて、知ることや学ぶきっかけを頂きました。子どもから大人まで幅広い層の方が観察会に参加していたこと、そのような機会があることが良かった。
- さまざまな角度からウミウシの新しい知見を知ることができ、日々の取り組みに生かせそうだと感じました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

4. 普及用資料および指導者向けガイドブックの作成

【開催日時】2025年7月26日（土）～9月27日（土）

【開催場所】きしわだ自然資料館、せんなん里海公園、広島県、鳥取県ほか

【参加者数】のべ20人

【活動内容・目的】

- 観察会で活用できる同定用資料（下敷き、図鑑）、観察会用の貸し出しキットを作成した。
- 普及用資料は観察会で試行的に運用し、スタッフや行事参加者からの意見をふまえ必要に応じて内容の改変を行った。



貸し出しキットの一例



観察会で試行的に運用しているところ



同定用資料（下敷き）

新たに観察会を始める団体・個人に対しては、観察ケース、採集道具、図鑑、磯観察の注意事項パネル等をスーツケース1つにまとめた観察キットを作成し、各団体への貸出を行った。内容物については観察会で運用し、必要に応じて改良を加えた。同定用資料の一つである下敷きは、枠組みを共通レイアウトとし、地域ごとに出現種の写真と種名のみを差し替えることで、他地域でも活用可能な汎用性の高い仕様とした。掲載写真は、昨年度の現地調査で得られた情報をもとに選定したほか、地域で活動する団体から提供を受けたものも活用した。今年度は西日本を中心に8パターンの資料を作成した。



専門学校との共同調査



専門学校との共同調査

大阪 ECO 動物海洋専門学校の学生と共同で、せんなん里海公園におけるウミウシ類の調査を実施し、公園内で確認された種をまとめた図鑑を作成した。本取り組みでは、学生が現地調査から種の同定、記録整理までを担うことで、実践的な学習機会の創出にもつながった。作成した図鑑は、しおさい楽習館において一般来館者が自由に閲覧できる形で配架する予定であり、来館者への普及啓発に資することが期待される。



図鑑で種名を調べる参加者



幼稚園での出前授業

同定用資料は、観察会に加えて学校等での出前授業においても試験的に活用した。東葛城幼稚園では、園児が強い関心を示し、自ら進んで種名を調べる様子が見られるなど、主体的な学びを促す教材として有効であることが確認された。本取り組みにより、同定用資料が多様な教育現場で活用可能であることが示され、今後の普及展開に向けた有用な知見が得られた。

【参加者の声】

- 見つけたウミウシを自分で名前をさがすことができたので、人に教えてもらうより色々な発見がありました。
- 教えてもらわないと気づかないことがあり、参加して良かった。次から海辺に行くのが楽しみになった。
- 今まで視野に入っていなかった小さな生き物に気づけたことが一番良かった。

【事業全体のまとめ】

ウミウシをテーマに、博物館・学校・地域団体・民間事業者・個人が連携する広域的な体制を構築し、各地で観察会や研修会を実施することができた。参加者数は目標を大きく上回り、事業規模と波及効果の拡大につながった。また、観察キットの貸し出しや地域ごとに活用可能な同定資料の開発などにより、各地域で継続的に活動できる仕組みが整備できた。

その結果として、参加者が「観察・理解・共有」を主体的に行う学びの場が複数地点で新たに創出され、海洋環境や生物多様性への関心の向上が見られたことに加え、学校連携や教員研修を通じて教育現場への展開も進み、ウミウシを入口とした「海の学び」を持続的に実施できる基盤を確立することができた。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 山陽女学園中等部・高等部	科学部と連携し「広島湾ウミウシ観察会」を立ち上げ、生息状況調査および教員研修を実施
2. 大阪 ECO 動物海洋専門学校	学生と連携し、せんなん里海公園のウミウシ図鑑を作成
3. 鳥羽市立海の博物館	観察会の共同実施および地域連携による海洋教育活動の展開
4. 山陰ジオパーク海と大地の自然館	観察会の共同実施および地域連携による海洋教育活動の展開
5. 宮崎県総合博物館	観察会の共同実施および地域連携による海洋教育活動の展開
6. LeapScubaAmami（奄美大島）	「奄美大島ウミウシ観察会」を立ち上げ、観察会の共同実施および地域連携による海洋教育活動の展開
7. 串本海中公園	観察会実施に向けた連携協議および事前調査
8. 高知県立足摺海洋館 SATOUMI	観察会実施に向けた連携協議および事前調査
9. 越前松島水族館	観察会実施に向けた連携協議および事前調査
10. 葉山しおさい博物館	観察会実施に向けた連携協議および事前調査
11. 小樽水族館	観察会実施に向けた連携協議および事前調査
12. 鹿児島大学	情報交換会の開催に伴う協力
13. さとうみ科学館	教員研修の実施に伴う会場の提供
14. せんなん里海公園	観察会および調査研究に伴う会場の提供
15. かえつ有明中・高等学校	連携事業の実施

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。